夕刊

十月十一日　發行

定價（第一月分）金六拾錢　（第二月分以後）金五拾錢
廣告料　（特殊廣告）金六拾錢　（普通）金九拾錢　（五號十二字詰一行）金拾錢（定期契約）
發行所　磐城新聞社
印刷人　木村
印刷所　田町十六番地
磐城新聞社
郵便振替（イ）第一五五番
（ロ）第一五六四番
電話五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

山口剛先生を悼む（上）

島田忠夫

×

今夏大津の五浦三味會講師として早大教授山口剛先生を迎へたのであつたが、昨八日に先生は牛込の自邸に、膵石病のため長逝された。これは實に意外な感であつて若し先生のあの偉大なる體軀を知る人は、私のやうに何人も愕いたに違ひない。と共に先生のあの人格を知る人は何人も先生の死を悼むに違ひない。

×

五浦三味會のとき、牛込辨天町の先生のお宅に伺つて、大津行をお願ひしたのであつたが、その時非常に意氣込んで『行くよ、必ず行くよ』と云はれて、傍らの旭君（阿伽井嶽の人）を呼んで口述させられた。それが本紙へ載つた文である。旭君は早大國文科を出て山口先生の許へ出入してゐるのであるが、先生のお氣に入りのやうであつた。

×

大津へ來られた日、私は驛まで迎へに出て、自動車で大津東町までお連れしたそれから五浦へ山づたひに行くのであるが、とある貝燒屋（うに燒）の前まで來ると、立止つてちつと見入り乍ら

『うまさうだね、島田君』

と云はれた。私は早速その夕から先生の食膳にうにの貝燒を上せた、翌朝も、その翌日も——。先生は一日平安朝の文學を論じ、江戸文學を論じ、さて昔の喰べものを論じたとき、たまたま貝燒にも話が及んで非常に賞美されたのである。このあたり、いかにも山口先生らしくおもしろく思つたら、どうだね隆一君』

などと云はれた。また私にも

『島田君もそうでせう、いや御同情に堪へません』

と冗談を云はれ

『市原さんもそうですか』

などと聞かれた。市原陸郎國手は

『いや、私の處は二人とも福島の平です』

と云ふと

『そりゃあ御無事ですな、僕の所の細君は茨城出身でいろ〳〵困つた經驗がありますから』と云つて、アハハのやうに何人も愕いたに違ひない。

恰度一緒に來た山口隆一氏は、先生のお弟子であり、また早大から帝都帝大へ留學させられた程の秀才であるが先生にはまるで子供のやうに扱はれ、また愛されるといふやうに見えた。この隆一氏の夫人が有名な四王天延孝中將の令嬢なのですから』と云つて、アハハのである。

時代警句

○精勤退かず一念天に通ず……（參同契註）

我が一月半日、乃至一年半年の勤勞を以て他人一生の効に比較せんとするは蓋し精勤退かざれば一念天に通ずるの理を知らざるものにして思ほざるも亦甚しき事である…

磐新歌壇

小山田滋選　　高木直吉

○こうもりのあまた住むとし言ひ傳ふこれの洞穴ぞ水垂るゝ音

○うゝ暗き洞に立てればかすかにぞ向ふ山澤の音きこゆ來る

（湯嶽登山）

○栗の實を食しつゝ下る麓原さむ〳〵としてタづきにけり

紫水生

○おほかたはすかれ果てたる畑中にもの珍しくトマト探すも

○うらなりのトマトとはいへ捨てがたき味にこそあれ秋深む頃は

○二つ三つすがれ畑に殘りたるトマトの色よ秋も深かる

潮聲句會（第四十八回於萬袋居）

雜詠（3）

乙鳥の飛び交ふ街や時計臺　眞砂常

漕ぎ出でて海の蒼さよ風涼し　逸郎

蟋蟀に月の明るき夜頃かな　晩霞

夏萩の下行く水の澄めるかな　武門

夏の夜の浪音遠く聞えけり　石城

圃中やたゝかまつかの燃ゆるのみ　松堂

はたか身は何の報ひか曼珠沙華　素秋

捕はれて悲哀を蟬の鳴きながら　芳月

軒近く水鷄鳴きけり風の夜半　鶴歩

拈華微笑

◇

按摩の喧嘩宜しくミヅで爭ふ好

◇

待ち遠いは大騒ぎで拵へた郡鑑

◇

間村と平町の店開き

◇

繭の高値來年迄持ち越す運勢。

◇

近來愉快な卦が出たもんだ

◇

二十圓がフイで鹿と馬鹿を一緒に見た飯野の人

◇

雲の色、風の音秋氣彌々清きに高鳴る遊子の琴線

時局情報

平商業學校配屬將校　駒塲謙

（承前）戰爭及開戰準備に於ける日本人のやりかたは一般輿論に從ふ間諜は日本で一番手柄を立てるそれは色々に化けて到る處に送らるることは出來まい、日本がれる彼等將來見込のある敵ひどく恐れて居るものは我の仕事に就きて數年間留り空軍である、日本は英國が都合よく情報を手に入れることが出來る樣な責任のある信用のある地位に潜ぎつけるのであるだん〳〵外人の好意友情及信賴を得る爲に乘ずべきものがあれば何でも之に乘ずる最も巧妙を極めた諜報の組織が間諜に依つて保たれて居るが特に米國に關する事に就て然た、どなたさまであらつし世間を他にしての旅遊山りである、日露戰爭後自尊心が日本を風靡した日本人は世界征服が出來ると考へた、然し歐洲大戰に於て突發した事柄を見た時、彼等は曾て戰を交へたことのある露軍は貧弱で國內に於ける內部の軋轢と反亂とに依つて崩壞したのを知り、且佛獨、英、米の如き軍隊と戰つて居たら話は全く相違したものであつたらうと云ふ事を自覺したのである。

備かぬ設けてあるから米國艦隊が日本に向つて作戰行動を取つてもハワイ出發當時から日本とマリアナ諸島間に活動する潛水艦の支援を受けるであらうし、飛行機於ける日本人のやりかたは海上艦船の位置を通報す輿論に從ふ間諜は日本るであらう。この狀況の下には如何なる海軍も存在す

マリアナ諸島には航空設

於て突

日本は極めて弱點のある國である英國と殆んど同じ位外部から供給を仰がねばならぬこれが爲の交通連絡線は朝鮮を經て亞細亞に走り油錫其他必要品を求むるには馬來半島に走るのである、從つてこの線上に活動するの潛水艦は多分これ等の必要品を積んだ船舶を擊破し得るであらう、

然し乍ら日本は決して我が海軍を恐れては居ない、日本はそれから連續した鎖の如くハワイから六〇〇〇哩の所まで委任統治のマリアナ諸島を有つて居て、米國よりフイリッピン又は日本への海軍作戰の線を完成に脚して居る。

講談　お蘭陀お蝶

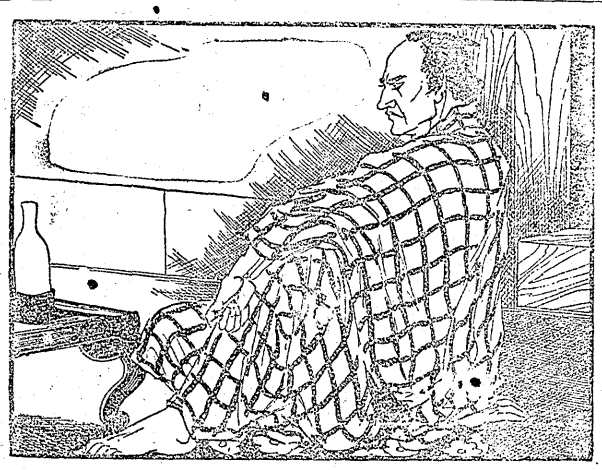
（155）　渡邊默禪作　布施長春畫

『有難う御座います、お蔭樣で大きに快しくなりました、どなたさまであらつし世間を他にしての旅遊山樣に此の大飢饉の那裡に草と强ひつける、延公は大得意で浮かれ出したが、勘藏は迷惑そうに、しやち子前垂れの湯女が押しかけて來て、さあお酌、さあお煙馬に急ぐ途でゆくりなくも病氣再發、こんな難儀な上塗をしたのであつた

通りかゝつた湯治客は、江戸藏前札差、小島屋助藏と云ふ派手商賈の道樂者、金の使ひ途に困つたといつて光らせたのである。

一風呂這入ると夕食の膳が出た、白く塗り立てた赤

御挨拶に罷り出る騷ぎであつた、勿論お茶代も思ひ切



にくい風

柴田比呂志

逢へる心のうれしさを
風は冷たく邪魔をする
弱い女の心も知らず
つむじ曲りのにくい風

秘めたる戀を解かんとて
其れさへ風は許されぬ
弱い女の心も知らず
つむじ曲りのにくい風

語る君なきやるせなさ
風は枕に囁けど
弱い女の心も知らず
つむじ曲りのにくい風

とやはれた。こんな愉快な冗談を言はれ『どうも茨城出身の婦人（四王天中將の夫人は茨城出身であり、隆一夫人はその生家に幼ふあつたのである。この氣が强いから、統制に困るだら

やつれてこそ居れ、飽くを施し、客色を飾らしむ、是を小湯女といふ、其の家々に名を定めて代々に傳ふこれを通り名と云ふ、二婢共に入浴の旅客に隨從して人湯の時刻を知らせ、浴衣を肩にかけて案內し、衣類を預けなどして待女の如くを唄ふ、是を有馬節と云ふひなびた調子を打揚げて唄ふ樣古雅にして殊勝に覺え侍るとある。

便つて行くところとても別にないので伊丹から池田とさまようゝのが恰ど五六日中少し許り持つてゐた路用の大雖の屋敷に仲間をしてゐた興平の貸家、それが有馬溫泉から餘り遠くない丹波街道の中野と云ふ所だと聞いてゐたので尋ねて行つたの所まで委任統治のマリアナ諸島を有つて居て、米國よりフイリッピン又は日本への海軍作戰の線を完成に脚して居る。

マリアナ諸島には航空設備かぬ設けてあるから米國艦隊が日本に向つて作戰行動を取つてもハワイ出發當時から日本とマリアナ諸島間に活動する潛水艦の支援を受けるであらうし、飛行機

日本は極めて弱點のある國である英國と殆んど同じ位外部から供給を仰がねばならぬこれが爲の交通連絡線は朝鮮を經て亞細亞に走り油錫其他必要品を求むるには馬來半島に走るのである、從つてこの線上に活動するの潛水艦は多分これ等の必要品を積んだ船舶を擊破し得るであらう、

然し乍ら日本は決して我が海軍を恐れては居ない、日本はそれから連續した鎖の如くハワイから六〇〇〇哩の所まで委任統治のマリアナ諸島を有つて居て、米國よりフイリッピン又は日本への海軍作戰の線を完成に脚して居る。

マリアナ諸島には航空設備かぬ設けてあるから米國艦隊が日本に向つて作戰行動を取つてもハワイ出發當時から日本とマリアナ諸島間に活動する潛水艦の支援を受けるであらうし、飛行機

社會の今日

○

コスモスや起きつ撓みつ風渡る　夢仙

刈り穗干す稻木に下りて珍しく鵯なくなり今日のよき日に

伊藤信太郎

△俳人芭蕉歿す（元祿七）△國會開會の詔勅下る（明治一四）△犬養毅氏政友會總裁となる（昭和四）△廣東の排日暴動化し、總領事邦人に引揚げを命ず（同六）

ラヂオ

……十二日…［水曜］…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇　七、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理献立（鯖の鹽むし）松本良雄
日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座
△正午　時報
△後〇、〇五　新日本音樂と胡弓（一、花園　二、砧　三、千鳥の曲）
△〇、四〇A　ニュース
△二、〇〇A　家庭大學講座　帝大助教授青木誠四郎
△二、二五　五、三〇A　運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況…明治對立教二回戰）
△三、四〇A　氣象　ニュース
△四、〇〇A　宗教講話（生命への呼聲としての達摩宗）澤木興道
△六、〇〇A（子供の時間）觀察物語（身体の不思議）小林茂男
△六、二五A　コドモの新聞　村岡花子
△六、二五　英語講座（初等科）岡倉由三郎
△六、五五　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇G　講演（農家の副業と藥用植物）熊本藥學專門學校長藥學博士村山義溫
△八、〇〇A　連續講談（關根彌太郎）田邊南龍
△八、三〇A　放送舞臺劇（戀飛脚大和住來　新口村の段）中村雁治郎　外
△九、三〇A　時報　ニュース　氣象

治病器の權威
オキシヘーラー
オキシヘーラーは萬病を切らずに心地よく必ず治す。但し電氣にあらず。
適應症　高血壓、輕症中氣、心臟病、胃腸病、カクック、ソコヒ、トラホーム、中耳炎、蓄膿症、呼吸器病一切、神經衰弱、腎臟病、神經痛、リウマチス、脊髓カリエス、婦人病、等々
七ケ郡一手販賣と實驗治療
平町田町大通り四九（三二三肉店前）
オキシヘーラー平實驗所

秋ヲ代表
イタシマス洋食
松茸ソテイー
松茸フライ
松茸ライス
ビフステーキ
メンチボール
チキンソテイー
紅茶
上御酒二十五錢
洋食。喫茶。宴會
コンパル
電話六六六番

吉田眼科病院
平町紺屋町

夜診
婦人病　皮膚病　淋病　專門部
內科　十二指腸病　專門部
外科　性病　泌尿器科　醫院
（平町南町電一〇七番）

川魚御料理
大蒲燒（一人前）四十錢
うなぎ丼　二十五錢
どぜう蒲燒（一人前）三十錢
どぜう丼　二十五錢
柳川　十五錢
ヒラキうなぎ百匁　二十五錢より
ヒラキどぜう百匁　二十錢より
配達迅速　相馬屋
四丁目川岸通り（電話二六一番）

度量衡。計量器。
吸入用酸素。
酸素吸入器。
關內藥局
電話四〇番

難波醫院
內科　一般
醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）

本年度新色全部揃ひました。
御値段は昨年と同じ位です。
色見本帳進呈致します。
田町　ハシモトヤ糸店
電話一四番

內臟外科
整形外科
泌尿器科
醫學士　內木宗八
外科
產婦人科
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

五十餘萬圓の大金が農家の懷ろへ轉げ込む

各方面の消息を綜合して繭の景氣は來年迄續かん

今年の地方蠶況は夏秋蠶以ればせの掃立が少くなかつた爲二十日頃迄出廻りが續來の價格奔騰に刺戟され晩秋繭の如き掃立の增加からくものと觀られてゐるが石蠶種が一躍從來の一圓三十錢前後より二圓五十錢位に釣り上げられ尙ほ且つ需要に應じ切れない爲最近では粗惡な無檢査のものが出現するやら人工孵化によつてボロイ收益を計劃するやら昨今では來春蠶の掃立てに事を欠くではないかを危ぶまれるに至つた程であるが之程無謀に近い掃立を行つた必然の結果として在所に遂蠶を生じたものの如くである、而して晩秋繭は來十五日頃を以て市場を閉鎖されるのが通例であるが今年は一攫千金を當て込んだ遲田入組合二百餘名あると金錢の問題であるから兩者の一致點が必らず見出せるもので未だ一件しかない處からみると一般債務者が心込んで居ないらしく十三日會には宣傳に効果の尠い債權者格が多いだらうと思はれると苦笑してゐた

調停委員會

最初の申請に對し けふ平區で開催

平區裁判所では金錢債務調停法施行の最初の申込である債權者平町白銀町櫻井清對債務者水野龜太郎兩氏調停の爲臨時調停委員會を組織し今十一日會議事堂に於て非公開裡に口頭審問を行つた

臨時債務調停法講演

明後日の十三日會

平區裁判所中島監督判事は十三日午後七時からマルトモで開かれる十三日會で金錢債務臨時調停法に關する講演をなすが右に就き氏は左の如く語つた

平商改修校竣功庭改修の工費を以て校庭改修中であつたが最近漸く完成したので各種スポーツに精進すべく發奮し野球部では愈々今十一日から猛練習を開始し來月上旬磐中との試合に備へる事となつた

郡町村長支會から蠶業取締の開所懇請

廳舎が出來て人選未定

各町村千五百圓、片倉製糸千圓合計三千五百圓と郡養蠶業組合の補助を以て八月下旬竣功し去月九日重田蠶糸課長、近藤營繕技師立會で縣に新廳舎を引渡し地方養蠶關係者は秋蠶中の開場を鶴首して居たが經費關係から役員の任命なく今以て開場されずに居るので今十一日伏見町村長支會長から縣に之が開場促進方を懇請する處あつた

。。。。。。。。

橋本女史講習會　關東軍特派橋本榮子女史講演會は十四日午後六時半から平署公會議室で開く

縣稅滯納六百件の差押へ財産公賣

平、小名濱、植田で執行

縣稅務平出張所管內十六町村に於ける六年度縣稅後期分滯納六百三十五件金額三千圓に對する差押へ物件の公賣は十九日午前十時から飯野村外八ヶ村の四百十三件を平出張所、二十一日小名濱町外三ヶ町村の七十四件を同町役場、二十五日山田村外二ヶ村の百四十八件を植田町役場で執行する事となつた、尙七年度前期分の差押へは昨十日から一齊に開始した

。。。。。。。。

差押物件公賣　小川江筋普通水利組合費六年度滯納四十八名金額白五十八圓に對する差押物件の公賣は二月十一日午前十時から平伏見町役場で執行する

揚水せよせぬで平と好間が揉める

あす町役場で兩者會見

徐に善後策を練る

襲年好間川から一個三分の取水契約をなし更に昭和四年二個六分に倍加するに方り潤帶決議として將來下流今新田方部に於ける灌漑水の枯渴を來した場合は平町は揚水喞筒を以て之を供給するの義務ある事とし爾來その契約を履行してゐたが最近同方面の灌漑水に欠乏を來したので好間側では平町に對して揚水方を要求し

て來たが右は好間村が更に不足に就て揚水の義務無しと突つ刎ね紛糾中であるが火防關係等から觀ても一日も拋つて置けぬ問題である明十二日金成同村長は消防幹部等と共に平町役場で伏見町長と會見折衝の筈で

あると

御齊所街道改修

極めて順調に進行

更に人夫白數十名を增加

工費四萬圓の匡救事業たる入遠野村地內御齊所街道延長八百米の道路改良工事は既報の如く平町堀江工業會社の手により過般着工以來蛭田田人組合の關係各村長及各村一名宛の人夫係が會極めて順調に進行中である合はぬので更に地元より百が右は所用人夫延べ二萬五千人と豫定されてゐる大工合せをなすが之が爲各役場事丈けに現在就業中なる百數十名を採用する事となり餘名を以てしては到底間に來十六日堀江工業社內に於て荒川上遠野、樋口入遠野合はぬので更に地元より百數十名を採用する事となり來十六日堀江工業社內に於て荒川上遠野、樋口入遠野

實る秋

チツケス村農〔三〕

解禁の切迫に胸は高鳴る

準備をさ〳〵怠りない

地方の獵天狗

『此の邊の好獵地ですかえ』

そうですね……赤井の山が走り駒の模樣が燒きつけん中から澤渡、箕輪の方てある茶椀に山吹色の茶をがいゝなんて云はれでやつぐと『ごクリ』と呑み乾したが、どうですかね』

すが、母家の傍にある柿の木陽射しの良い樣側で獵銃の手入れをして居る親爺さん

。。。。。。。。

。。。。。。。。

。。。。。。。。